

2021年度事業計画

2021年度に予定している事業は、下記のとおりである。

1. 所蔵資料等の調査研究とその成果の発表
2. 資料の収集・整理・保管、修理保存
3. 資料の公開・展示等
4. 一般および青少年を対象とした教育普及活動
5. 三井記念美術館の館内諸設備更新工事

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

1. 三井に関する歴史研究の拠点としての役割を果たすべく、研究員各自の調査研究(* a)を一層深め、外部研究者の参加も得て各種研究会や史料輪読会などを定期的に行き、それらの成果を「三井文庫論叢」(第55号)、外部の論集・研究雑誌、学会・外部研究会などで発表する。
* a 三井を中心とする江戸時代における商業史・金融史・制度史の研究、明治以降の経済史・経営史の研究など。
2. 三井関係資料(* b)の調査・収集を進める。
* b 近世では、三井一族・奉公人関係、取引先関係、縁故諸施設など。近代では、三井銀行関係、旧三井物産関係、三井鉱山関係、関係会社社史編纂資料、個人所蔵資料など。
3. 資料保存環境の整備(* c)を進める。
* c 書庫環境の調査点検、所蔵史料の点検と保存方法の改善。
4. 所蔵未整理資料の整理と公開準備(* d)を進める。
* d 旧三井物産資料、三井鉱山資料など。
なお、2021年中に三井鉱山資料の追加公開を予定。
5. 所蔵資料のデジタル複製画像作成(* e)を進める。
* e 旧三井物産資料、三井鉱山資料等のデジタルスキニングなど。
6. 所蔵資料・刊行物などのWEB公開に向けた準備を進める。
7. 所蔵資料目録データベースの整備とWEB公開を進める。
8. 所蔵資料の中から一般的に史料価値の高いものを翻刻刊行する「三井文庫史料叢書」のうち、大坂両替店「聞書」第二巻の刊行準備を進める。
9. 社会経済史研究の共通基盤となるデータベース(* f)の作成・公開の準備を進める。
* f 三井合名会社理事会議案データベース、三池鉱業所往復文書データベースなど。
10. 戦後の三井関連事業などについてのヒアリングを行う。
11. 三井文庫WEBサイト(ホームページ)の充実をはかる。
12. 歴史資料の収集・保存・公開・研究に携わる国内外の諸機関・専門家との経験交流、情報共有、共同研究などに取り組む。

13. 三井グループ各社の資料保存や歴史研修などの取り組みに協力する。
14. 研究成果の社会還元ならびに資料保存への関心喚起のため講演会など一般向けの普及広報活動に取り組む。

なお、上記いずれについても新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適切な対策を講じて実施することとし、状況によっては（とりわけ2、10については）本年度の実施を見送ることとする。

II. 文化史・美術館関連事業

● 文化史関係（資料の保管整理研究事業）

1. 美術館（三井記念美術館）の収蔵庫、三井文庫別館の収蔵庫・展示室改造の保管室、三井倉庫（辰巳）、以上三か所に分散保管する収蔵品につき、保管場所の固定化と、管理台帳への記載、管理要項の作成、定期的な実査の実施などについて、数年内の完成実施を目標に作業を進める。なお、今年度は美術館設備更新にあたり美術館を休館とする期間に、三井文庫別館の収蔵庫と展示室改造の保管室で保管する収蔵品につき、作品の確認、管理台帳への記載と保管場所の固定化を集中的に行う。

美術品の移送にあたっては、美術品専門の運送業者に依頼し、細心の注意を払う。なお、修理・定期的手入れを必要とする資料（* g）については、専門業者や専門家に依頼し、修復・保全を図る。

* g 掛軸、巻物、漆工品、刀剣。

2. 美術館（三井記念美術館）および別館（三井文庫別館）の収蔵庫・展示室内の環境を適切に管理し、保管に万全を期す。特に美術館の収蔵庫・展示室に関しては、温湿度・虫害・カビ等の管理を徹底し、空調設備の改善・微調整を行う。また、収蔵庫内の有毒ガスなどの測定を定期的に行う。さらに、美術館収蔵庫・展示室の燻煙による害虫の駆除、美術館収蔵品・別館収蔵庫・展示室のガス燻蒸による、害虫およびカビの駆除なども状況に応じて実施する。
3. 2005年開館以来15年を過ぎ、建築・内装・展示ケース・照明・空調・防犯・警備関係等随所に不具合が出ており、全体的な設備更新が必要となっている。三井不動産・日本設計・三井住友建設ほか、美術館設立当時のプロジェクトチームにより、昨年度から検討を重ねてきた具体的な計画・日程に従い、設備更新工事を実施する。
4. 館蔵資料およびそれに関する資料、展覧会に関連するテーマについて、必要に応じて外部研究者の協力を仰ぎながら、調査研究を進める。内外利用者の便宜を図るため、コンピューターによる所蔵資料目録の作成・整理を進める。
また、並行して研究員各自の調査研究（* h）を一層進める。
* h 日本文化史、茶道美術史、陶磁史、絵画史、書跡史、漆工史、仏教美術史、神仏習合美術史等。
5. 『三井美術文化史論集』第15号を発行する。
6. 昨年度見送った、重文刀剣及び白鞘の修理について、点数を増やし本阿弥氏より総額

200万円を超える費用見積りと修理計画書を再度提出してもらい、中野区・東京都・文化庁へ文化財関係国庫補助事業計画書を再度提出する。

7. 学会・大学・研究機関などの研究会等は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら、受け入れを検討する。
8. 他の美術館・博物館の展覧会等に対し、資料の出品協力を行い、学術文化の振興に寄与する。

● 三井記念美術館（資料の公開事業）

1. 2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の発生ならびに拡大防止を最重要課題と位置付け、来館者と職員・スタッフの生命・安全・安心を確保しつつ美術館の使命・職務を遂行する。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行った以下の対策を継続する。

①開館時間の短縮（11：00～16：00、最終入館15：30）

②団体来館の受け入れ中止

③音声ガイドの貸出中止

④来館者に対し、マスク着用、入館時の検温、手指の消毒、緊急連絡先（感染者が館内で発生した場合）の記入、ソーシャルディスタンスを保った鑑賞を依頼

⑤展示室が密になることを避けるため在館者数を一定数以下に保つ

⑥職員のマスク着用、フェイスガード着用、手袋着用、毎朝の検温

なお、上記の各項目については、新型コロナウイルス感染症拡大状況や社会情勢を見ながら、緩和を検討する。

2. 2021年度は、三井記念美術館の展示室において、次の3期に分けて展覧会を開催する。（年間開館日数105日間）

○ 『特別展 小村雪岱スタイル—江戸の粋から東京モダンへ』

2021年4月1日(木)～4月18日(日) 開館日数：16日間

* 前年度からの展覧会

① 『三井記念美術館コレクション 雪月も花も友とて… 茶箱と茶籠』

2021年5月1日(土)～6月27日(日) 開館日数：51日間

② 『三井記念美術館コレクション特別展 日本・東洋美術にみる自然のすがた(仮称)』

2021年7月10日(土)～8月22日(日) 開館日数：39日間

(注) 展覧会名、開催期間等一部変更を生じる場合あり

3. 美術品の貸出・借用にあたっては、管理・手続きを厳格に行い、事故防止の徹底に努める。

4. 開館より15年以上経ち、経年劣化の著しい館内設備を更新するため、2021年8月23日(月)より2022年4月28日(木)(予定)まで、休館期間とする。

5. 下記事業については、新型コロナウイルス感染症拡大あるいは継続している状況下に於いては対面形式での実施はしない。但し、ワクチンの普及や治療薬の効果により感染者数が減少し、その傾向が数値的に裏付けられる場合は、改めて実施の検討を行う。

①記者説明会、内覧会、特別鑑賞会

②講演会、講座等

③教育普及活動

- ・一般および青少年・学生等を対象とした、学芸員および教育普及担当による展示解説講演・講義等
- ・小中学生を対象とした鑑賞会・ワークショップ
- ・都内を中心とした教職員対象の研修会
- ・教育機関の団体鑑賞や研究会等の受入
- ・都内の教育機関からの要望に基づく出張講座

6. 青少年向けの展覧会ワークシートの制作・配布を行う。

7. 大学授業との連携を図り、授業内容に関連した展覧会に関しては、新型コロナウイルス感染拡大状況を見ながら、学生の見学の受け入れを検討する。

8. 美術館の運営およびPR面において、以下の通り取り組む。

①東京駅周辺の5美術館（アーツゾン美術館、出光美術館、三菱一号館美術館、東京ステーションギャラリー、当館）で運営している公式サイト「5museums.tokyo」に於いて、各館の展覧会情報、また、下記のとおり新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を中止する事業、および今後の状況を見ながら実施の有無を検討する事業について、情報開示を行う。

- ・「東京駅周辺美術館共通券2021」の発行中止
- ・「東京駅周辺美術館MAP（2021年4月～9月版／10月～2022年3月版）」発行の検討
- ・「EDO TOKYO NIPPON アートフェス2021」実施の検討
- ・「学生無料ウィーク」実施の検討

②当館の普及広報活動の一環として例年参加している「東京・ミュージアムぐるっとパス」について、2021年度は設備更新休館期間があるため参加を休止する。

③一定の集客強化対策として、有力会員組織との連携関係を検討する。

④来館者のリピーター化の促進を目的とし、例年発行している「ミュージアムパスポート」については、2021年度は設備更新休館期間があるため、発行しないこととする。また、顧客満足度の高いサービスの提供に役立てるために実施している来館者アンケートは、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら、実施を検討する。

⑤近隣の商業施設・ホテル・美術館などのほか、中央区主催のイベントへの参加や区民へのレクチャー等、日本橋地区の活性化に寄与するための事業への参加については、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら、参加を検討する。

⑥日本橋室町地区の商業集積度の向上に合わせ、外国人来館者等への対応を進める。

⑦三井グループ各社へのインナーキャンペーン強化のために例年行っている、「賛助会社社員・家族特別招待会」、「賛助会社部門長特別招待会」、「賛助会社社員招待会」、「賛助会社女性社員招待会」の開催、また各社の新入社員研修等の受け入れについては、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら、実施を検討する。

⑧賛助会社のVIPご招待など、美術館閉館後の貸切り特別サービスについては、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら、受け入れを検討する。

9. 上記にて述べた事業の実施可否については、新型コロナウイルス感染拡大状況や社会情勢の推移に応じて検討していくこととする。ワクチンの普及や治療薬の効果により感染者数が減少し、その傾向が数値的に裏付けられる場合は、改めて実施に向け検討を行う。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため募集がなかったが、今年度は箱根町と協議の上、同町が見学者を募集する「文化財探訪会」の公開や、建築、茶道等関連研究者等の見学会や外部講師を招いた研究会の実施を検討する。

修繕工事については、旧玄関の腰壁および残月の間の外腰壁の修繕、松の間等の腐食した箇所、敷地内にある温泉塔の塗装等の工事を中心に行う予定である。

<収益事業>

I. 不動産賃貸業

三井花桐ビルは、満室となっており、前年度並みの収入を確保する見込みである。今年度の修繕工事は、外壁改修工事・空調室内機組込型加湿器メンテナンス工事、建物診断、建物豎管劣化診断工事等を実施する予定。

以上